

「誰か × 誰か」「誰か × 何か」の組み合わせが面白い。

絵本 × 自伝

『ねないこはわたし』
せなけいこ / 著 文芸春秋

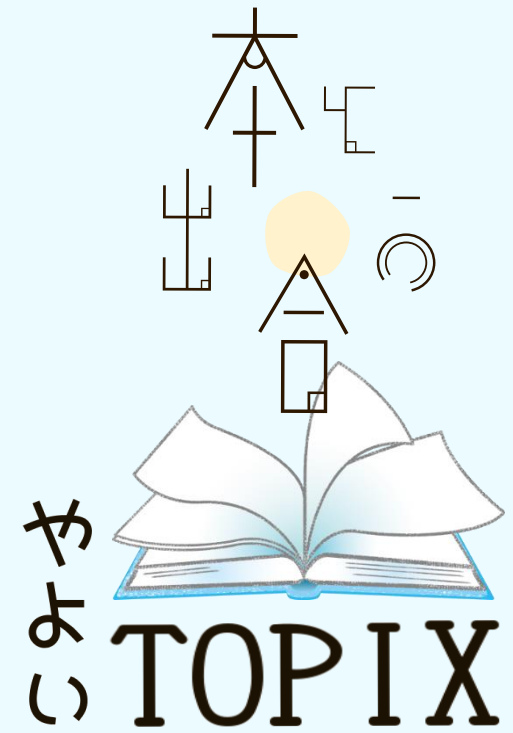
独特な貼り絵と、衝撃の展開が印象的な名作絵本「ねないこだれだ」。その作者であるせなけいこさんの制作の背景や、自身の生い立ち、子育てについて綴った自伝的絵本がこの『ねないこはわたし』です。彼女の絵本に登場する「おばけ」はどのような形で生まれたのか。絵本作家になったきっかけ、貼り絵の楽しさ、子供たちへの思い、今まで知らなかった絵本の裏側を知ることができる1冊となっています。(竹原)



館長が紹介する
「印象に残った一文」とは？



『こっそり ごっそり
まちをかえよう。』
三浦文典 / 著 彰国社

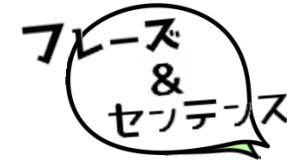


みんなで考えよう、環境のこと。



中央本町地域学習センターの近くにある、あだち再生館をご存知ですか？ 今月号から、あだち再生館の図書コーナーを、足立の環境を考えるドラゴン「ミリー」「ドリー」「リリー」と共にご案内します。

図書コーナーでは、環境・リサイクルについての本や、月刊誌、新聞などをご覧いただけます。また、貸出も行っていきます。期間は2週間、おひとり3冊までです。初めてご利用される方は、ご住所を確認できるものをお持ちください。「あだち再生館図書貸出カード」を作ります。足立区図書館の個人貸出カードは使えませんので、ご注意ください。
『日経エコロジー』『フリマガイド』『Reonome』など、足立区図書館には所蔵がない雑誌もあります。ぜひご利用ください。



「心とまちは結びついている」

この本の中には、あなたが住む町をちよつと楽しくするための、ささやかな作戦がたくさん詰まっています。「じぶんのいえにあだ名をつけよう。」「すぐく古くからありそうなお祭りをでっぴあげよう。」「大冒険できる宝の地図をつくらう。」「などなど。考えてみるだけでも、今までも気にも留めなかったことが急に輝いて見える、なんてことがあるかもしれません。この本のまえがきにもありますが、町の未来を作るのは、自治体でも政治家でもなく、その町に住むふつうの人達なのです。そんな当たり前のことに気付く1冊。(丸山)

図書館職員がやってみました！

こんにちは。手芸担当の丸山です。暖かくなり、お花見に出かける方も多いのではないのでしょうか。しかし今回は花より団子！ ということで、和菓子作りに挑戦です。
とはいえ、図書館で本物の和菓子を表示するのはちよつと難しいので、フェルトでそれっぽく作りました。本にも書かれています。和菓子は日本の季節に合わせて作られ、名前や形に様々な由来があります。その由来を知るだけでも、和菓子を見るのが楽しくなりそう。ただし、今回は作りやすさを重視して、季節感の後回しです。そして、やっぱり気になるのはそのお味。本を読んでいると本当にどれもおいしそうで、参考のために…と言いつつ自分でも和菓子屋さんでいろいろ買ってみました。素材はフェルトですが、少しでもおいしそうに見えたらいいな、と思います。(丸山)



Vol.13



『和菓子のアン』
坂木司 / 著 光文社

記念日から見つける、とっておきの1冊。

昭和36年、世界初の有人宇宙衛星・ソ連のポストーク1号が打ち上げに成功したことから、4月12日は世界宇宙飛行の日になりました。



こんな本もありますよ 『ビジュアル雑学図鑑① 宇宙のはかり方』
懸秀彦 / 監修 グラフィック社

今回は宇宙にまつわる本を紹介いたします。『果てしない宇宙の中で思う未来のこと』
毛利衛 / 著 数研出版
『果てしない宇宙の中で思う未来のこと』
毛利衛 / 著 数研出版
F小説好きな人には必見です。その他にも今までに毛利さんが影響を受けた本の紹介もあり、本好きな人もぜひ手に取って見てください。
(竹原)

クイズにこたえて、
図書館でプレゼントをもらおう。

もんだい：4月1日は、何をついてもいい日？

- ① おもち ② おしり ③ うそ

こたえ：_____